

第1章 横浜若葉台マスタープランの目的・位置づけ

1-1 マスタープランの目的

次世代に選ばれるまち・住まいをつくるための目標・方針を策定する

住宅数が世帯数を超え、地域間競争が激化する現代において、まちや住宅の価値・魅力を高めて若葉台でしかできない暮らしを提示し、若年層から高齢者層まで様々な世代に選ばれるまち・住まいをつくるにはどうしたらよいか、その目標および方針を示します。

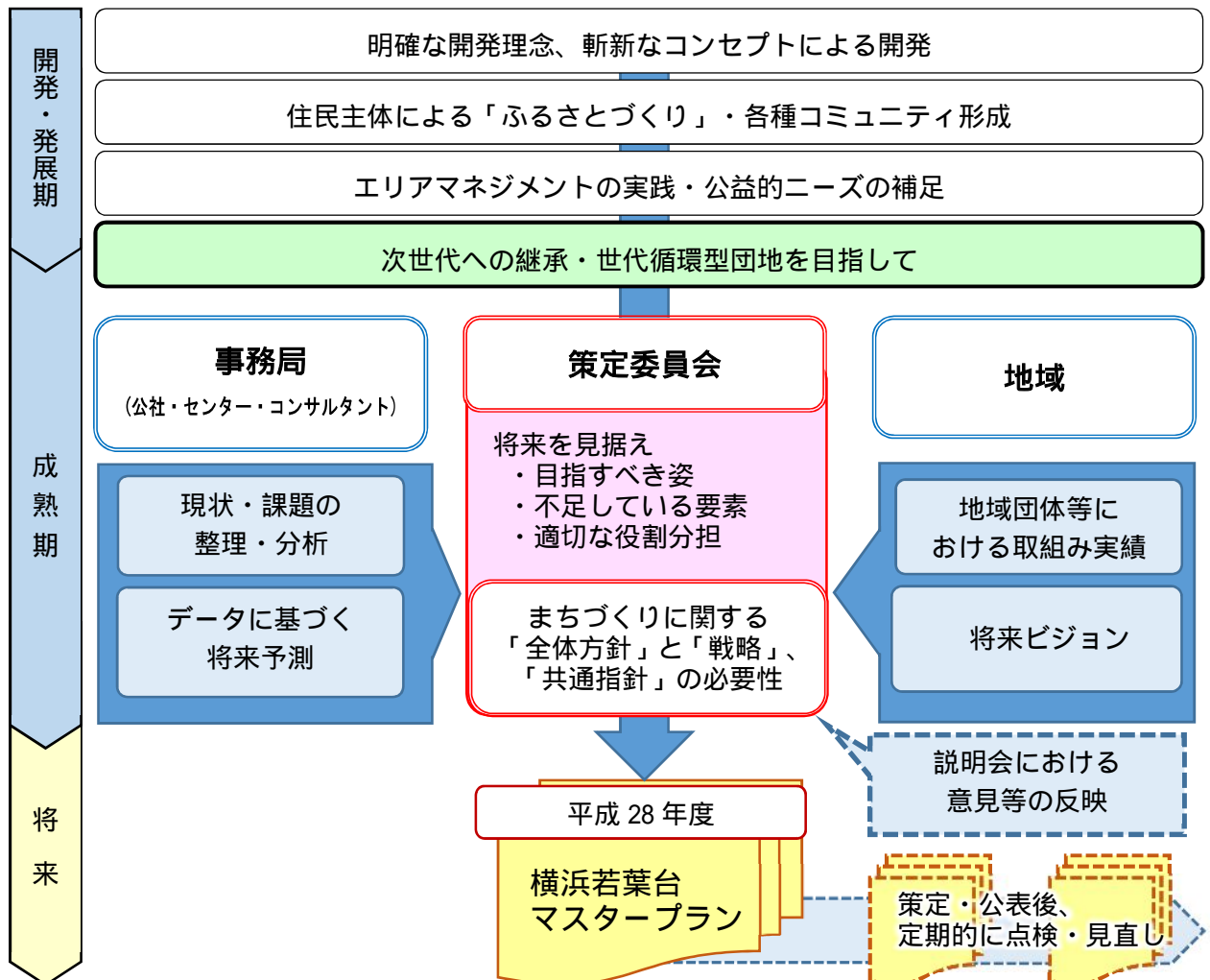
関係主体一丸となってまちづくりを進めていく指針とする

現在、行われている様々な活動を軸として、既存の取組みの見直しや連携・充実化を行い、未利用地や既存施設の有効活用などによって新たな価値創造を図るため、まちづくりの目標・方針や推進体制を明確化し、関係主体者全員で共有します。

次世代や新たな地域の担い手へのメッセージとする

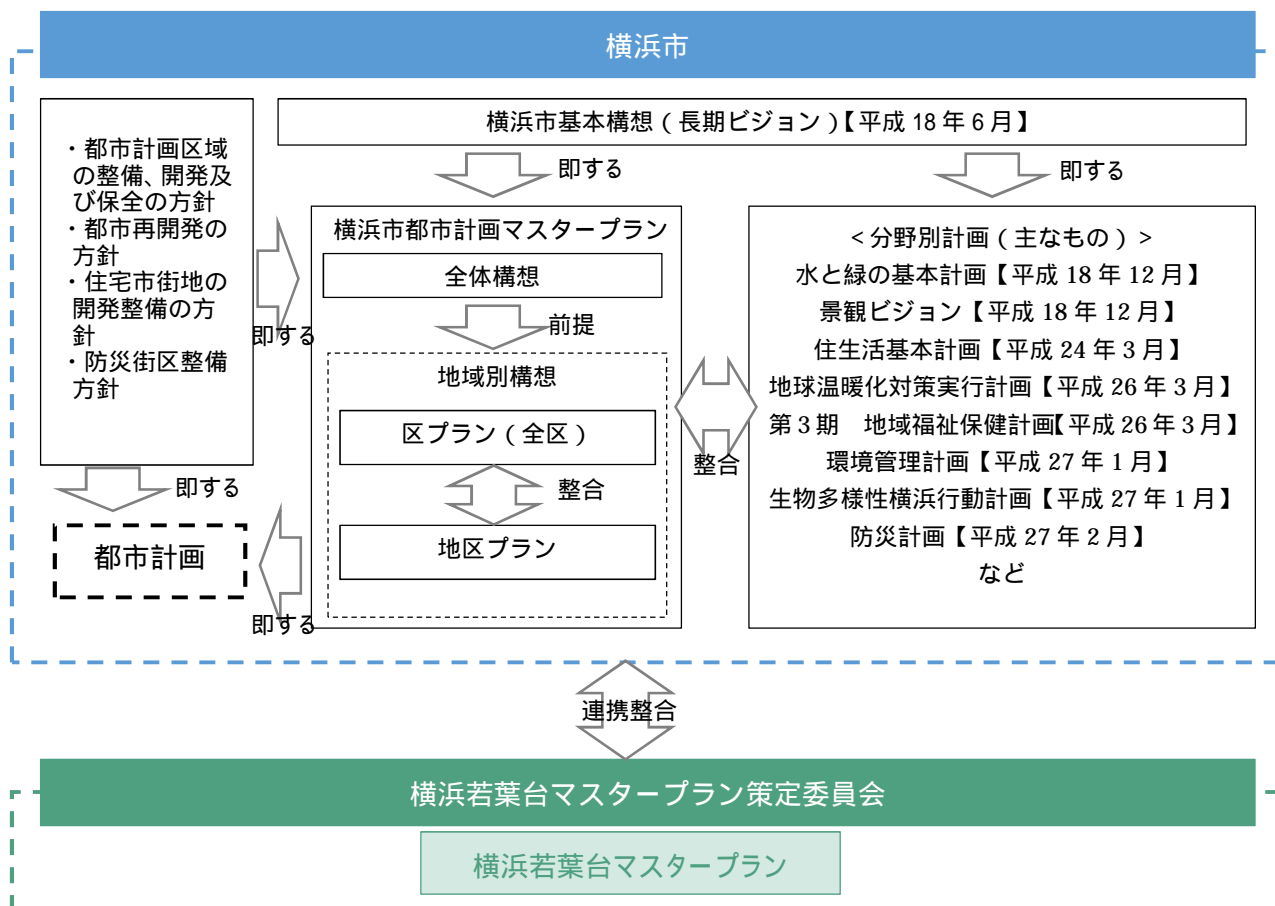
魅力や課題、これまで行われている活動などを整理し、今後のまちづくりの目標・方針をまとめることで、次世代や新たな地域の担い手へ受け継ぐ指針とします。

マスタープランの役割イメージ図



1 - 2 . マスタープランの位置づけ

- ・横浜若葉台マスタープランは、横浜市の関連施策と連携、整合を図りながら、まちの将来に向けた目標や方針の実現を図ります。
- ・マスタープランは 30 年後のまちの将来像を見据えたうえで策定しますが、各取組みの進捗状況やその時代の社会状況に応じて、適宜見直しを図ることとします。



1 - 3 . マスタープランの基本的な視点

- ・若葉台がこれからも魅力的で活力のある地域を持続的に維持してゆくためには、地域の魅力や地域力の蓄積を意識して高め続けながら、新たな外部の力も採りこんで活力を維持し続けなくてはなりません。
- ・そのために必要な「5つの基本的な視点」をここに記し、マスタープランにおいての基本的な視点とします。

まちを「オープン（開放）」にする

持続循環型の豊かなまちにしていくためには、外部のチカラや新しい視点も積極的に採り入れつつ、地域資源の価値を再発見していく必要があります。

そのためには、外部のチカラ（活性化の原動力）を受け入れやすいような、あたたかでオープンな環境をつくるとともに、休日や余暇時間を含め、一年中快適に過ごすことができる環境づくりや、様々なひとが集い、交流し、活躍できる場（拠点作りや地域雇用の創出）についても考えながら、外にも中にも「ひらかれたまち」を創出する必要があります。

まちのカスタマイズ（更新・改修）を図る

若葉台には魅力ある地域資源が豊富に存在する一方、社会環境や人口構造が変化する中で、現代のニーズに合わなくなっている部分や老朽化している部分も増えています。新たな世代の流入を図り持続的にまちを「経営」していくためには、地域のストックの利点と課題を再確認したうえで、現在の状況に合った使い方や空間に更新・改修・調整（カスタマイズ）して、これら資源を使い続けながら更なる魅力を付加していくことが重要です。

まちづくりの柔軟性を高める

人口成長時代のまちづくりは、目標や将来像が比較的明確であり、計画に向かって実現していくまちづくりでしたが、現在は人口減少時代であるだけでなく、目標も多様化し、社会状況も短い時間で変化しています。硬直型の目標を立てるだけでなく、すぐできることから時間をかけて関係者を巻き込みながら進めてゆくこと、長期的なスパンでまちづくりを行うためにも、社会動向や環境の変化に合わせて対応・調整を積み重ねられる、柔軟性の高い新しいまちづくりシステムが必要です。

まちづくりの「自分ごと化」を図る

次世代の主役となる生産年齢人口や取組みを推進する資金なども限られる有限時代のまちづくりでは、行政や誰かに事業を完全に任せるのではなく、それぞれの主体が小さなチカラ・役割を發揮し、集積させていくことが大切です。そのためにも、自分でできることは、できる範囲内で自発的に行いしつつ、地域のまちづくりにも自分の生活の一部として積極的に関わり、それぞれが自分の役割を果たす、みんながやまちづくりの当事者になる環境や仕掛けづくりが重要になってきます。

マネジメントを通じて地域を経営する

資源や人材に限られる時代に持続循環型まちづくりを実現していくためには、それぞれがバラバラに活動するのではなく、各取組みが相互補完的かつ有機的に結びつき、相乗効果を發揮する取組みが推進されていくように「全体調整」を図る必要があります。また、活動が持続するためには、資金的な裏づけと「まちを経営」していくという視点も必要となります。そのためにも、地域をマネジメントしていくための組織化・仕組み化を図ることが求められます。

1 - 4 . 本マスタープランの構成

0 章 : はじめに

- ・ 横浜若葉台の概要やMP策定の背景

第 1 章 横浜若葉台マスタープランの目的・位置づけ

- 1 . マスタープランの目的
- 2 . マスタープランの位置づけ
- 3 . マスタープランの基本的な視点

第 2 章 開発の経緯と特徴

- 1 . 開発当初の基本計画と法規制
- 2 . 入居当初から続く活発な自治会活動・地域活動

第 3 章 課題と資源

- 1 . 課題
 - (1) 将来に向けた内在的な課題
 - (2) 現場における様々な課題
 - (3) 将来的に予想される暮らしや環境の変化
- 2 . 地域の資源 (強み) と暮らしの魅力
 - (1) 活用すべき地域の資源 (強み)
 - (2) ココロで感じる横浜若葉台の魅力
- 3 . 横浜若葉台をとりまく課題と資源の総括

第 4 章 まちづくりの目標および基本方針

- 1 . まちづくりの目標
- 2 . まちづくりの基本方針
 - (1) 中心街をエンジンとしてまちの活性化と再編を推進する
 - (2) 多様な主体により「地域包括子育て」を実現する
 - (3) 包括的な「安全・安心・健康まちづくり」を実現する
 - (4) 住環境と公共空間のリノベーション (カスタマイズ) を展開する
 - (5) 豊かな「若葉台ブランド・ライフスタイル」を構築し発信する
 - (6) 総合的なエリアマネジメントを発展的展開する
- 3 . 目指すべきまちのあり方

第 5 章 目標実現に向けた取組み

第 6 章 実現に向けて